

りには、ハウセンカ程ではないが、割合ウドノコ菌の発生がみられる。然し子嚢殻はめったに形成されない。上記ハウセンカの菌をヒマワりに接種し、ハウセンカ上の菌がヒマワりに寄生しない事を確かめた。

野外においてある一種の菌に犯される寄主が他の近縁種その他の寄主と混生している所で、後者は菌に犯されていない場合を見出した。その菌の后者への寄生性を接種試験によって確かめたところ、次のことが明らかになった。*E. pisi* 菌に就いては、ヤブマメ上の菌がフジカンゾウに、また、ヌスビトハギ上の菌がフジカンゾウに寄生しない。*E. cichoracearum* 菌に就いては、ヨモギ上の菌がオトコヨモギには寄生しない。*Sph. fuliginea* 菌に就いては、アキノノゲシ上の菌がヤクシソウに、キツリフネ上の菌がツリフネソウに、またハウセンカ上の菌がヒマワりに寄生しない。なお供試菌、及び寄主はすべて同一採集地のものを用いた。

**Summary** This is the inoculation experiment with conidia of some powdery mildew produced on some host-plants in Central Japan. *Erysiphe pisi* produced on *Amphicarpaea Edgeworthii* Benth. var. *japonica* Oliver and *Desmodium roemosum* DC. can not be a parasite to *D. Oldhami* Oliv. Similarly, *E. cichoracearum* produced on *Artemisia vulgaris* L. var. *indica* Maxim. can not be a parasite to *A. japonica* Thunb. Negative results were also confirmed in *Sphaerotheca fuliginea* produced on *Impatiens noli-tangere* L. to *I. Textori* Miq., and *Sph. fuliginea* produced on *I. Balsamina* L. to *Helianthus annuus* L.

文献 1) Sawada, K. (1927). Dep. Agri. Gov. Res. Ins. For. Jap. 24: 1-55. 2) Hirata, K. (1956). Ann. Phyto. Soc. Jap. 7: 346-349. 3) Nomura, Y. (1962). Trans. Mycol. Soc. Jap. 3: 100-104. 4) —. (1966). *ibid.* 7: 346-349.  
(江東区立第二砂田中学校)

○高等植物分布資料 (84) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (84)

○モクゲンジ *Koelreuteria paniculata* Laxm. 1973年8月末、長崎県対馬の植物調査中、同島中部の西海岸にある豊玉村妙見で、モクゲンジの自生と思われるものを見つけた。大きいものは高さ 5 m、幹のまわり 50 cm ほどで、すぐそばに元島神社があるが、この境内に、種子がこぼれこんで発芽した多くの幼苗もみられた。また、この神社から 300 m ほど離れた海岸にもある。モクゲンジは大陸のもので日本には自生しないとされていたが、1919年に田代善太郎等によって、福井県の敦賀半島で発見され、その後山口・兵庫両県下で見つかったものと思う。対馬の産地は、大陸に面した西側であること、ならどに壱岐の新第三紀層から化石が出ていることなどを合せ考えると、これが対馬にみつかったも、さほど不思議ではないように思う。(外山三郎)